

いちご病害虫情報第8号(1月)

平成28年1月22日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	6	3	3	4	7	36	20	0	0	総調査ほ場数: 66か所 総調査株数: 1,650株 花調査ほ場数: 66か所 総調査花数: 3,300花 (調査株数 25株 (調査花数 50花)) ※ 年比 = (本年平均値 / 前年値) × 100 ※ アザミウマ類の調査は花調査かつ前年値は過去4年の値
	本年平均値	9.1	4.5	4.5	6.1	10.6	54.5	30.3	0.0	0.0	
	前年値	4.2	4.8	12.4	8.6	6.2	49.6	45.7	0.0	15.3	
	前年比	216.7	93.8	36.3	70.9	171.0	109.9	66.3	-	0.0	
	発生程度	多	前年並	やや少	前年並	やや多	前年並	前年並	少	少	
株率	発生株数	0	0	0	0	10	369	52	0	0	○ 今月の病害虫発生状況 ○ ・一部のほ場で灰色かび病、うどんこ病が散見されます。 ・アブラムシ類の発生はやや多い状況です。 ・ハダニ類の発生は前年並ですが、先月に比べ、多発生のほ場が増加しています。
	本年平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	22.4	3.2	0.0	0.0	
	前年値	0.1	0.1	0.6	0.1	0.6	18.0	8.4	0.0	0.4	
	前年比	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	124.4	38.1	-	0.0	
	発生程度	少	少	少	少	前年並	前年並	やや少	少	少	
概 評		前年並	やや少	やや少	やや少	やや多	前年並	前年並	少	少	

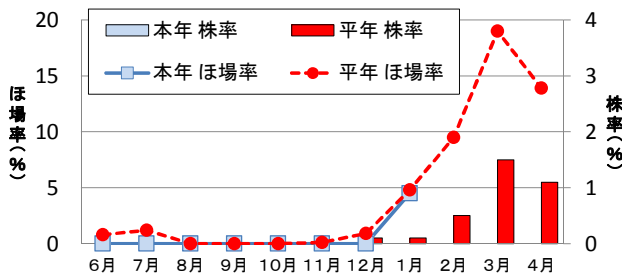


図1 灰色かび病発生ほ場率・株率

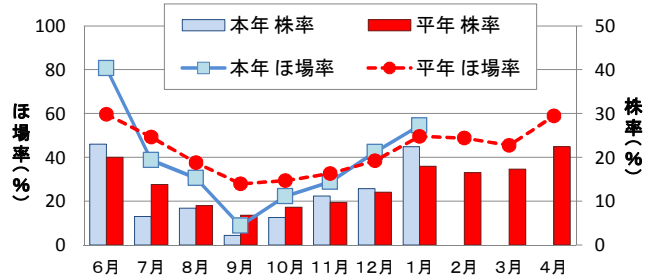


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

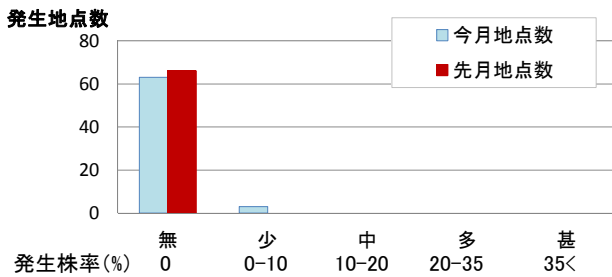


図3 発生程度別の地点数(灰色かび病)

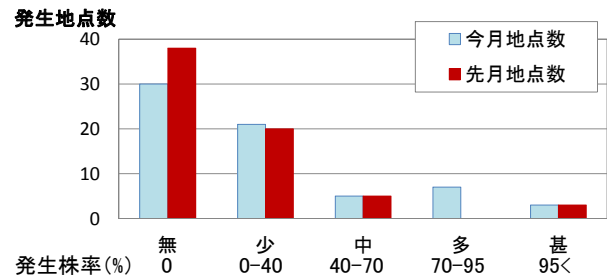


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○灰色かび病対策

- ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
- ・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・発生状況に応じてフルピカフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ＊「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定①、②」を当センターホームページに掲載中。

○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- ・カブリダニ剤の追加放飼を行う際にハダニ類の発生が目立つ場合は、薬剤を散布してから放飼する。
- ＊ 気門封鎖剤は卵には効果が低いため、複数回、十分量を散布する。
- ＊ 天敵放飼から1～2週間は薬剤散布を避け、また使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。
- ＊ 「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」を当センターホームページに掲載中。



写真 灰色かび病

○今月の技術情報(技術指導班)○(1月)

11月に天候が崩れて以降、灰色かび病の発生が多く見られます。また、害虫では、引き続きハダニ類の発生が見られるとともに、アブラムシ類の発生が前年よりも多くなっています。

下葉の除去、除湿など管理作業、ハウス内の適正な温湿度管理や換気等により、発生しにくい環境を作るとともに、病害虫の早期発見、早期防除に努めましょう。

また、28年産は暖冬傾向にあるため、アザミウマ類の発生が懸念されますので注意しましょう。

受粉用ミツバチの活動も弱くなりやすい時期ですので、活動状況を確認しましょう。